

平成 19 年度日本海ブロック水産業関係試験研究開発推進会議研究部会報告  
 漁業資源・海洋環境研究合同部会

日時：平成 19 年 11 月 8 日（火）10 時～17 時

場所：ガレソホール（新潟市）

参加機関：13 機関 30 名、オブザーバ：2 機関 2 名

議事	議事概要
<p>(1) 報告事項</p> <p>1) 平成 18 年度漁業資源部会及び海洋環境部会に対する要望事項に係る対応状況</p> <p>2) 平成 19 年度水産研究実施概要及び平成 20 年度研究計画概要</p> <p>(2) 協議事項</p> <p>1) 平成 19 年度水産研究成果情報候補課題の検討</p>	<p>開会、自己紹介のあと報告事項は日本海海洋環境部長、協議事項は日本海漁業資源部長の座長で議事が進められた。</p> <p>漁業資源研究部会に対する要望事項「水深 300m 以浅に分布する底魚類の群集構造の把握」及び「日本海南西海域における主要底魚類を始めとする水産資源の群集構造を把握するための共同研究」について、日水研から対応状況の説明、及び島根県からミニシンポジウムについての補足説明があった。</p> <p>海洋環境研究部会に対する要望事項「春期の底質悪化の原因究明と予報に関する研究」について、日水研から情報交換の経過とデータ解析結果について説明があった。また、「海洋観測及び資源モニタリング調査の継続実施体制整備」について、日水研及び青森県から「漁海況モニタリング問題に関する作業部会」での検討状況の報告があった。</p> <p>府県および日水研 4 研究室から概要の説明と質疑が行われた。</p> <p>府県から提案された成果情報候補課題の内、以下の 5 課題について提出機関からの説明と質疑が行われた。部会における検討をもとに修正し推進会議へ提出することとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 漁業情報リアルタイム提供システムの開発（石川県水産総合センター）</li> <li>● 漁獲加入前のホッコクアカエビの資源評価手法の開発（石川県水産総合センター）</li> <li>● 日本海南西部におけるソデイカの漁場形成要因の</li> </ul>

<p>2) 漁業資源・海洋環境研究合同部会に対する要望事項 研究ニーズの検討</p>	<p>解析と中短期的漁況予測技術の開発（兵庫県農林水産技術総合センター但馬水産技術センター）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ソデイカの遊泳水深帯と漁具水深は一致しているか？（兵庫県農林水産技術総合センター但馬水産技術センター）</li> <li>● 日本海南西海域の海洋環境変化に応答する浮魚類資源の漁獲変動に関する研究（鳥取県水産試験場）</li> <li>● ベニズワイの食性と餌料環境（日水研日本海漁業資源部）</li> <li>● 日本海沖合域における大型クラゲの分布密度（日水研日本海海洋環境部）</li> </ul> <p>合同部会に提出された研究ニーズとして下の5件について協議が行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「日本海中部海域におけるイカ釣り昼間操業の実証試験」（新潟県） コスト、魚価等の情報を得るために調査を行う意味はあるが、事前に合同協議会を構成している関係県（石川県～山形県）との調整が必要であり、将来的な課題として必要に応じて検討を行うこととした。</li> <li>● 「ズワイガニの餌料環境調査」（福井県） 他の事業などによる試料を活用し、海域間の比較などの検討するため、既往の知見を整理することとした。</li> <li>● 「沿岸域における水産生物の生息状況の把握」（福井県） マアジ資源について技会プロ研 FRECS で成果がえられている。更なる解析が可能かどうか、日水研を窓口として担当者同士で意見交換を行うこととした。</li> <li>● 「日本海における基礎生産力と水産資源に関する調査研究」（福井県） 沿岸定線観測の充実については、前述のモニタリング作業部会の提言の具体化が示された際に検討することとした。また、水研が実施している衛星画像を利用した広域クロロフィル分布把握の研究が紹介された。</li> <li>● 「大型クラゲの発生ステージ毎の殺処分技術の開発」（福井県） 技会プロ研「大量発生生物 2007-2011」の大課題</li> </ul>
--	--

<p>全国水産試験場 長会要望事項の 検討</p> <p>(3) その他</p> <p>閉会</p>	<p>「有害生物大発生予測・制御技術の開発」に提案できる技術に関する情報を収集することとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「日本海における赤潮モニタリング技術の開発」(兵庫県) 赤潮・貝毒部会検討することが適当であるため、同部会にニーズを提案することとした。</li> <li>● 「日本海西部海域における底魚の資源回復を進めるための有効な漁業管理方式の開発」 報告事項で進捗について協議した。</li> <li>● 「日本海で急増しているサワラ資源の実態解明と持続的利用に関する研究」について 日水研よりプロジェクト案の提案があり協議した。 ブラッシュアップにもう少し時間を掛けた方が良く、20年度向けとしては手続き的に間に合わない県が複数あったことから、場長会要望通り20年度は検討会、FSなどでブラッシュアップを図り、21年度の課題化を目指すこととした。</li> <li>● 日水研海洋動態研究室から日本海海況予測システムの運用開始について説明があった。</li> <li>● 日本海海洋部から水産庁平成20年度新規事業「地球温暖化による沿岸漁業環境への影響評価・適応策検討調査に関する情報」について説明があった。</li> <li>● 日水研業務推進部から農水省の競争的資金制度の再編、高度化事業の後継の事業について説明があった。</li> <li>● JAFIC から水温観測ブイの情報提供の紹介があった。</li> </ul>
--	--